

平成26年度入学生対象

別記様式1

平成26年3月5日

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第三類（言語文化教育系）国語文化系コース〕

プログラムの名称（和文）	中等教育科学（国語）プログラム
（英文）	Secondary School Japanese Language Education
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>中等教育科学（国語）プログラムは、</p> <ol style="list-style-type: none">① “ことば”とその文化への深い理解②人間と社会および両者の関係を“ことば”にそくして考えていく力③人間と社会および両者の関係に働きかけてあらたな地平を切り開いていく力④中等教育ならびに中等「国語」教育実践がかかえるアクチュアルな課題に対応し、“ことば”をめぐる広くかつ深い知見を以て諸問題を考察、探求、解決していく力 <p>の育成によって、中等教育及び生涯学習社会に貢献できる専門性と豊かな人間性を有する指導的人材を養成することをめざすプログラムである。</p> <p>本プログラムは、中等教育教員の養成を主目的としているが、研究者養成とともに、一般企業・行政職・自治体文化施設等の公共団体などで教育専門職として活躍できる人材の輩出をも想定している。そこで、専門教育科目では、専門科目（「プログラム発展科目Ⅰ」）において広く国語文化とその教育の世界を学び、その上でそれぞれのキャリアデザインを策定させ、それに応じた授業科目を「専門選択科目」（「プログラム発展科目Ⅱ」）、「自由選択科目」（教職関係科目を含む）から履修できるようにし、さらに、卒業研究では学生一人一人の進路希望に応じた指導を行うこととしている。</p>	
<p>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）</p> <p>プログラム開始（選択）時期は、1年次である。</p>	
<p>3. プログラムの到達目標と成果</p> <p>（1）プログラムの到達目標</p> <p>本プログラムは、中等「国語」教員として必要な次のことの達成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 教科教育的思考を育成し、教育研究能力を開発する。 ：中等「国語」の教育実践（国語文化実践）にかかわる知的・専門的・職業的能力の形成2) 教授内容に関連した基礎的基本的な認識を形成し、その研究能力を開発する。 ：中等「国語」の教育内容（国語文化内容）にかかわる知的・専門的・職業的能力の形成3) 優れた国語科教育実践力を育成する。 ：国語文化実践・国語文化内容のそれぞれに関する教育現場での研究課題を、学際的・総合的視点から考察し、幅広い社会的視野と課題探求力をもって解決していく能力の形成 <p>本プログラムにおける教養教育では、中等教育の実践者としての資質の育成を目指している。履修を指定した教養教育科目は、国際化、情報化社会の中で教育を取り巻く状況を考え実践していく力を育むための外国語科目、情報科目、また、人間の知への幅広い視野と深い理解をもって教育問題をと</p>	

らえ実践していくためのパッケージ別科目、さらには、教育実践者にとっての必須の資質である基礎教養科目としての領域科目から構成されている。本プログラムでは、これらの教養教育諸科目の学習をとおして育成される諸能力をこそ、中等「国語」教師の資質の基盤をなすものと考えている。

(2) プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）

※それぞれの学習方法については別紙1に記入。

○知識・理解

＊教育、中等学校、生徒（こども）、“ことば”とその文化に関する知識・理解

- 1) 教育および中等学校に関する基本的理解
- 2) 児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解
- 3) 中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的な知識
- 4) 中等「国語」の教育内容（“ことば”とその文化）に関する基本的な知識

○知的能力・技能

＊中等学校ならびに中等「国語」教育の実践に関わる能力・技能

＊人間と社会および両者の関係を“ことば”にそくして考えていく能力・技能

- 1) 中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。
- 2) 中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。
- 3) 中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。
- 4) 中等「国語」内容の各領域（国語学・国文学・漢文学）に関する資料・情報を収集し、読解することができる。
- 5) 中等「国語」内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。
- 6) 中等「国語」内容領域に関連した研究課題を文献や資（史）料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。
- 7) “ことば”とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。

○実践的能力・技能

＊人間と社会および両者の関係に働きかけ、あらたな地平を切り開いていこうとする意欲をもって、中等教育ならびに中等「国語」教育の場で教育実践をおこなう能力・技能

- 1) 中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。
- 2) 中等「国語」教育の内容や教材を分析し、開発することができる。
- 3) 中等「国語」教育の授業を分析、構想、立案し、学習指導案として作成することができる。
- 4) 中等教育および中等「国語」教育に関わる研究を計画、設計し、進め、その結果を分析、検討し、その意義を示すことができる。

○総合的能力・技能

＊教育、中等学校、生徒（こども）、“ことば”とその文化に関する知識・理解、また中等「国語」教育に関わる知的能力・技能、実践的能力・技能を以て、中等教育ならびに中等「国語」教

育実践がかかえるアクチュアルな課題を発見、考察、探求、解決していく、具体的な能力・技能

- 1) 個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関する研究や活動を企画、立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。（研究力）
- 2) コンピュータなど I T 機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。（I T 活用力）
- 3) 中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。（プレゼンテーション・コミュニケーション力）
- 4) 多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」をめぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム（プロジェクト的活動）の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。（社会性・協同性）

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要（学位の種類、必要な単位数）

本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにて実施される授業科目（教養教育科目 34 単位、専門基礎科目 4 単位、専門科目発展科目 I 16 単位、専門科目発展科目 II 36 単位、専門選択科目・自由選択科目 32 単位、卒業研究 6 単位）を選択履修することによって修得する、128 単位を条件としている。

(2) 得られる資格等

教育職員免許法に基づき、専門選択科目の履修科目として教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（国語）と高等学校教諭一種免許（国語）を取得できる。また、特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格が取得可能である。

(3) プログラムの構造

※体系図 別紙 2、参照。

本プログラムの授業科目は、専門教育を以下の 5 種科目群の区分指標のもと、段階的に構成している。

- ① 専門基礎科目＝中等教育プログラム共通科目＋国語プログラム基礎科目（全必修）
- ② 専門科目発展科目 I＝国語プログラム発展科目 I（全必修）
- ③ 専門科目発展科目 II＝国語プログラム発展科目 II（進路別選択履修）
- ④ 専門選択科目・自由選択科目＝教職関係科目＋教育学部他プログラム＋他学部開設授業（進路別選択履修）
- ⑤ 卒業研究科目＝国語文化研究法＋卒業論文

このうち、①・②・③・⑤の内容は次の a b c d 4 科目群によって編成されている。

- a) 「国語文化実践」科目群（教科「国語」の教育実践学を構成する、国語教育学の諸領域）【②・③・⑤科目】
 - ・「国語教育学概論 I」「国語教育学概論 II」＝（以上、②科目）
 - ・「国語教育基礎論」「国語科教育方法論」「国語カリキュラム・教材構成論」「国語科教育

評価論」「国語科教材研究演習」「国語教育史」「国語科学習開発論」＝（以上、③科目）

・「国語文化研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「卒業論文」＝（以上、⑤科目）

b) 「国語文化内容」科目群（教科「国語」の教育内容学を構成する、言語系〔国語学〕・文学系〔国文学・漢文学〕及び書写書道の諸領域）【②・③・⑤科目】

○言語系

・「国語文化概論A（国語文化とことば）」「国語文化の歴史A（国語の歴史）」＝（以上、②科目）

・「現代国語文化演習A（国語学分野）」「古代国語文化演習A（国語学分野）」「古代国語文化研究A（国語学分野）」「現代国語文化研究A（国語学分野）」＝（以上、③科目）

・「国語文化研究法Ⅴ・Ⅵ」「卒業論文」＝（以上、⑤科目）

○文学系

・「国語文化概論B（国語文化と文学）」「国語文化概論C（国語文化と漢文）」「国語文化の歴史B（国文学の歴史）」＝（以上、②科目）

・「現代国語文化演習B（国文学分野＝近現代文学）」「古代国語文化演習B（国文学分野＝古典文学）」「現代国語文化研究B（国文学分野＝近現代文学）」「古代国語文化研究B（国文学分野＝古典文学）」「国語文化の歴史C（漢文学の歴史）」「漢字漢語文化研究」「古代中世文学概説」「古代中世文学演習Ⅰ」「古代中世文学研究法」「近世文学概説」「近世文学演習Ⅰ」「近世文学研究法」「中国古典散文演習」「中国古典韻文演習」＝（以上、③科目）

・「国語文化研究法Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ」「卒業論文」＝（以上、⑤科目）

※書写書道

・「国語文化概論D（国語文化と書写書道）」＝（以上、②科目）

・「書写書道演習」「国語文化の歴史D（書写書道の歴史）」＝（以上、③科目）

c) 「プロジェクト（「国語文化実践」「国語文化内容」統合）」科目群【①・④科目】

・「国語文化基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（「国語文化実践」「国語文化内容」統合）＝（以上、①科目）

・「教職実践演習」（「国語文化実践」「国語文化内容」統合、教職関係科目、自由選択履修）＝（以上、④科目）

d) 「フィールドリサーチ（実践観察）」科目群【④科目】

・「中・高等学校教育実習入門」＝（以上、④科目）

本プログラムでは、このような構造をもった科目群構成のもと、必修科目履修、希望進路に応じた選択科目履修を通じて、上記の知識・理解、能力・技能の育成、到達目標の達成をはかるべく、各授業科目を用意している。

※ 体系的に理解できる図を別紙2-1・2-2として添付。

(4) 卒業論文（卒業研究）（位置付け、配属方法・時期等）

○目的

卒業論文は、本プログラム履修の到達点である。「プログラムによる学習の成果、（前記）を活かし、自ら発見した中等「国語」の教育と内容にかかわる、あるいはまた生涯学習社会に対応した「ことば」とその文化の研究と教育などにかかわる、アクチュアルな課題を考察、探求することをつうじて本プログラムでの学習・研究の到達目標を達成すること、生涯にわたる研究課題を自ら開拓することを目的とする。

○概要

- 1) 6セメ（3年次後期）において、「国語文化研究法」（Ⅰ～Ⅳ＝教育系、Ⅴ～Ⅵ＝言語系、Ⅶ～Ⅸ＝文学系）から1科目を選択して履修する（なお、Ⅰ～Ⅸの全9科目から2つまでの履修を認め、2科目目は教育系、言語系・文学系のうち1科目目で履修しない系列科目とする）。
- 2) 各「研究法」授業終了時に「研究テーマ」を策定する（2つの「研究法」科目を履修した者はこの時点で1「研究法」科目領域を確定する）。
- 3) 7・8セメは、6セメで履修した「研究法」科目（2つの「研究法」科目を履修した者はその内から選択確定した1「研究法」科目）の担当教員＝卒業論文指導教員の指導のもと、各自の研究テーマに即して研究を進める。
- 4) 8セメにおいて、10月の所定期日までに研究テーマを届け出て、翌年1月末日に卒業論文を提出する。

○配属時期と配属方法

6セメ終了時。

- 1) 5セメ終了時（3年次7月）に、「研究法」科目の概要、履修方法について説明、指導を行う。
- 2) 6セメ終了時（3年次2月）に、「研究法」科目単位を履修した者に対して研究領域希望調査を実施し、配属を確定する。

5. 授業科目及び授業内容

※ 履修表を別紙3として添付。

シラバスは、「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照してください。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

※ 別紙1に記載。

(2) 学習支援体制

○教員による支援

1) チューター制度

1年次から3年次後期までは、学年チューターが指導的に任を果たす。

4年次前期から4年次終了までは、卒業論文指導教員が指導的に任を果たす。

2) プログラム教員会

主として国語文化教育学講座の教員によって構成し、学生の学習支援体制を作る。

3) 講座支援室

国語文化教育学講座が、本プログラムにおける教育の支援に当たる。（連絡窓口は、国語文化教育学講座事務補佐員（教育学部A棟3階303研究室）である。）

4) 講座図書室

国語文化教育学図書室の図書、資（史）料、IT 機器等を活用し、学習を支援する。

7. 評価（試験・成績評価）

（1）到達度チェックの仕組み

○個人成績

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算法により、GPA として累積する。
- 3) 学年ごとに、GPA を算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする。
- 4) 各学年で、評価項目ごとに、到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

○成績評価

- 1) 1 年次、2 年次、3 年次には、取得単位数と成績達成水準により、次年次への進級が判定される。
- 2) 未達成者には、問題点と課題が提示される。本来の水準に達したときに、次年次に進級できる。
- 3) 4 年次では、これまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの到達度に、卒業論文の成績を加えて、本プログラムでの総合的な成績評価が提示される。

（2）成績が示す意味

※ 別紙 4（到達目標評価項目と評価基準の表）に記入。

8. プログラムの責任体制と評価

（1）PDCA 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

本プログラムは、主として教育学部の国語文化教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（国語文化教育学講座の主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

（2）プログラムの評価

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

○評価の実施方法（授業評価との関連も記載）

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して 4 年経た年次にプログラム自体の成果を評価する。第 1 の教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足と中等「国語」教員資格の充足）による評価、および、実施した教員グループによる総合的な評価によって、行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価にもとづいて、本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第 2 の社会的効果に関しては、学生の教員および教育関連職への採用率による評価、採用後の

「国語」教員としての成長度による評価として実施される。本プログラムを学習した学生が教員をめざした場合、いつ、どの時点で、正教員になったのか、また、教員としてどのように活躍しているかを数年おきに調べ、教員としての成長度合いを総合的に評価する。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下学年のプログラム運営・実施に反映させる。

※担当教員リストは、別紙5を参照。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <p>*教育、中等学校、生徒（こども）、“ことば、とその文化に関する知識・理解。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)教育および中等学校に関する基本的理解。 2)児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解。 3)中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的な知識。 4)中等「国語」の教育内容（“ことば、とその文化）に関する基本的な知識。 	<p>教育・学習の方法</p> <p>中等「国語」教育における基礎的基本的な知識・理解（1～4）は、専門科目発展科目Ⅰ（プログラム発展科目Ⅰ）における講義、実習・演習、自由選択科目で履修指導をおこなう教職科目など、また、各授業科目が課す自己学習、課題、レポート作成などを通じて、獲得できるようにする。発展的な知識・理解は専門科目発展科目Ⅱ（国語プログラム発展科目Ⅱ）で獲得させる。</p> <p>評価</p> <p>知識・理解（1～4）は、各授業科目にて行う中間試験や期末試験、課題やレポートを通して評価する。</p>
--	---

○ 知的能力・技能

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <p>*中等教育ならびに中等「国語」教育の実践に関わる能力・技能。</p> <p>*人間と社会および両者の関係を“ことば、にそくして考えていく能力・技能。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。 2)中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。 3)中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。 4)中等「国語」の教育内容の各領域（国語学・国文学・漢文学）に関する資料・情報を収集し、読解することができる。 5)中等「国語」内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。 6)中等「国語」内容領域に関連した研究課題を文献や資（史）料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。 7)“ことば、とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育をあり方を探求することができる。 	<p>教育・学習の方法</p> <p>知的能力・技能（1～7）は、国語文化基礎ゼミにおける論文精読、それをもととしたグループ討議や発展的調査、研究、また、専門科目発展科目Ⅰ（国語プログラム発展科目Ⅰ）各授業科目における講義、実習・演習を通じて基礎的基本的なものを獲得するとともに、専門科目発展科目Ⅱ（国語プログラム発展科目Ⅱ）での学習、を通じて実践的な世界にふれさせ、自由選択科目（教職系科目）や卒業研究（国語文化研究法A・B、論文作成）を通してより上位のものに発展させる。</p> <p>評価</p> <p>知的能力・技能（1～7）は、国語文化基礎ゼミ、実習・演習などにおけるグループ学習、討議、研究、課題や実践調査及び観察のレポートを通して評価する。卒業研究（国語文化研究法A・B、卒業論文）は、これらの能力・技能を学生自身が到達したのかを確認し、よい上位の能力・技能へ発展させる場にする。</p>
---	---

○ 実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

*人間と社会および両者の関係に働きかけ、あらたな地平を切り開いていこうとする意欲をもって、中等教育ならびに中等「国語」教育の場で教育実践をおこなう能力・技能。

- 1)中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。
- 2)中等「国語」教育の内容や教材を分析し、開発することができる。
- 3)中等「国語」教育の授業を分析、構想、立案し、学習指導案として作成することができる。
- 4)中等教育および中等「国語」教育に関わる研究を計画、設計し、進め、その結果を分析、検討し、その意義を示すことができる。

教育・学習の方法

実践的能力・技能（1～4）は、国語文化基礎ゼミ、演習・実習などにおいて、カリキュラム作成、教材開発、指導案作成、小研究（レポート・課題研究）などの実際的な課題遂行作業を通して、身に付け、専門科目発展科目Ⅱ（国語プログラム発展科目Ⅱ）や卒業研究（国語文化研究法Ⅰ～Ⅸ、卒業論文作成）において、より上位なものに発展させるとともに、実践的に使用・発揮できるようにする。

評価

実践的能力・技能は（1～4）は、特定課題の遂行の過程、その結果で評価する。卒業研究（国語文化研究法Ⅰ～Ⅸ、卒業論文作成）の結果において、学生自身がどのレベルまで到達したのかを確認できるようにする。

○ 総合的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

*教育、中等学校、生徒（子ども）、"ことば"とその文化に関する知識・理解、また中等「国語」教育に関わる知的能力・技能、実践的能力・技能を以て、中等教育ならびに中等「国語」教育実践がかかえるアクチュアルな課題を発見、考察、探求、解決していく、具体的な能力・技能。

- 1)個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「語」の教育・内容・実践に関わる研究や活動を企画、立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。（研究力）
- 2)コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。（IT活用力）
- 3)中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。（プレゼンテーション・コミュニケーション力）
- 4)多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム（プロジェクト的活動）の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。（社会性・協同性）

教育・学習の方法

総合的能力・技能（1～4）は、プログラム全体を通じて発達させるが、教養的科目の教養ゼミ、情報活用演習、専門基礎科目の国語文化基礎ゼミⅠ・Ⅱなどを通じて重点的に身に付け、個別の講義・演習・実習などを通じて上位のものに発展させ、専門科目発展科目Ⅱ（国語プログラム発展科目Ⅱ）や卒業研究（国語文化研究法Ⅰ～Ⅸ、卒業論文作成）の過程で実践的に発揮できるようにする。

評価

総合的能力・技能（1～4）は、プログラム全体において総合的に評価する。とりわけ、卒業研究（国語文化研究法Ⅰ～Ⅸ、卒業論文作成）の結果において、学生自身がどのレベルまで達成したのかを確認できるようにする。

別紙2 主専攻プログラム モデル体系図

教育学部 中等教育科学(国語)プログラム

(専門教育における)学習の成果	教養教育到達目標	1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解	教育および中等学校に関する基本的理解	○情報科目		◎国語教育学概論Ⅰ						
	児童・青年期の子どものために関する基礎的な理解	◎教養ゼミ		国語教育基礎論				国語科教育評価論		
	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的な知識	○外国語科目 ○領域科目	○外国語科目 ○領域科目	◎国語教育学概論Ⅰ ○領域科目	◎国語教育学概論Ⅱ ○領域科目		国語教育史			
	中等「国語」の教育内容(「ことば」とその文化)に関する基本的な知識	◎平和科目 ○パッケージ別科目	◎平和科目 ○パッケージ別科目	◎国語文化概論A ◎国語文化概論B ◎国語文化概論D ◎国語文化の歴史B	◎国語文化概論C ◎国語文化の歴史A 書写書道演習					
知的能力・技能	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。		◎国語文化基礎ゼミⅠ ◎国語文化基礎ゼミⅡ		国語科学習開発論					
	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。					国語科教育方法論 国語カリキュラム・教材構成論				
	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。	○領域科目 ○情報科目	○領域科目 ○情報科目	○領域科目	○領域科目		国語教育史	国語科教育評価論		
	中等「国語」の教育内容の各領域(国語学・国文学・漢文学)に関する資料・情報を収集し、読解することができる。		◎国語文化基礎ゼミⅠ ◎国語文化基礎ゼミⅡ	◎国語文化概論A ◎国語文化概論B ◎国語文化概論D ◎国語文化の歴史B	◎国語文化概論C ◎国語文化の歴史A					
	中等「国語」内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。	○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目	古代国語文化演習A(国語学分野) 現代国語文化演習A(国語学分野) 現代国語文化演習B(国文学分野)				
	中等「国語」内容領域に関連した研究課題を文献や資料(史)料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。					古代国語文化演習B(国文学分野) 国語文化の歴史C(漢文学の歴史)				
	ことばとその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解できる。			◎外国語科目	◎外国語科目	古代国語文化演習A(国語学分野) 現代国語文化演習A(国語学分野) 現代国語文化演習B(国文学分野) 国語文化の歴史C(漢文学の歴史)			
							古代国語文化研究A(国語学分野) 現代国語文化研究A(国語学分野) 古代国語文化研究B(国文学分野) 現代国語文化研究B(国文学分野) 漢字漢語文化研究			

実践的能力・技能	中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。					国語科教材研究演習	国語カリキュラム・教材構成論				
	中等「国語」教育の内容や教材を分析し、開発することができる。					国語科教材研究演習		古代国語文化研究A(国語学分野) 現代国語文化研究A(国語学分野) 古代国語文化研究B(国文学分野) 現代国語文化研究B(国文学分野) 漢字漢語文化研究			
	中等「国語」教育の授業を分析、構想、立案し、学習指導案として作成することができる。					◎国語教育学概論Ⅱ 国語科学習開発論	国語科教育方法論				
総合的能力・技能	中等教育および中等「国語」教育に関わる研究を計画、設計し、進め、その結果を分析、検討し、その意義を示すことができる。	特定の事象から課題を発見し、説明できる。	◎教養ゼミ ○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目		◎国語文化研究法			
	個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究や活動を企画、立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。(研究力)	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。	◎教養ゼミ ○パッケージ別科目	○パッケージ別科目					◎国語文化研究法		
	コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。(IT活用力)	情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を適切に行うことができる。	○情報科目	○情報科目					◎国語文化研究法		
	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。(プレゼンテーション・コミュニケーション力)	特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。								◎卒業論文	◎卒業論文 △教職実践演習
多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム(プロジェクト的活動)の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。(社会性・協同性)	特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。								◎卒業論文	◎卒業論文 △教職実践演習	

教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

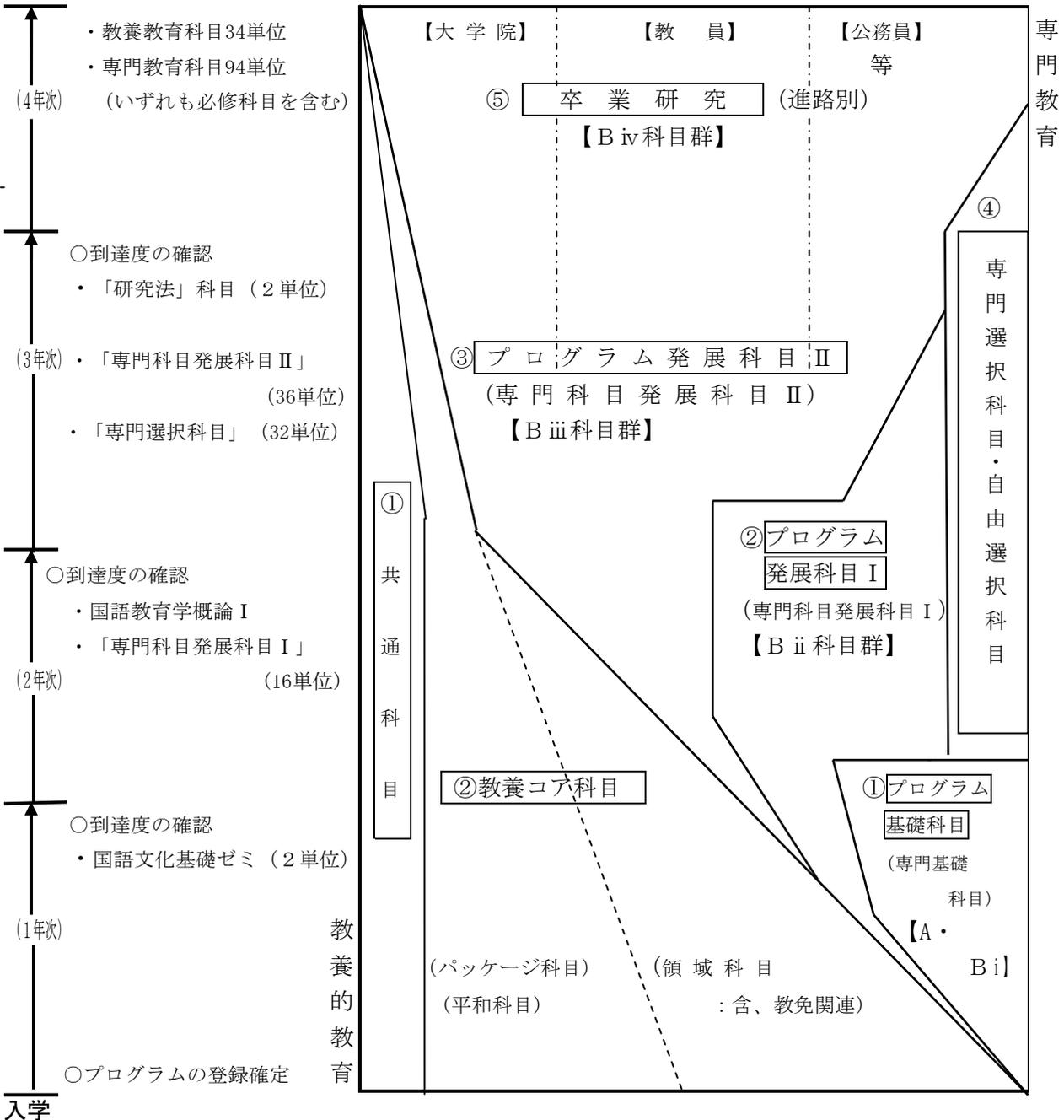
(△)選択科目

(2) プログラムの構造

a プログラムの概念図

中等教育科学（国語）プログラムは、中等教育教員の養成を主目的としていますが、その延長線上での研究者養成とともに、一般企業・行政職・自治体文化施設などで活躍できる人材の輩出をも想定しています。そこで、専門教育科目では、「専門科目発展科目Ⅰ」（「プログラム発展科目Ⅰ」）において広く国語文化とその教育の世界を学び、その上でそれぞれのキャリアデザインを策定させ、それに応じた授業科目を「専門科目発展科目Ⅱ」（「プログラム発展科目Ⅱ」）、「専門選択科目」（教職免許状必修科目を含む）から履修できるようにし、さらに、卒業研究では学生一人一人の進路希望に応じた指導を行うこととしています。

卒業 ○プログラムの到達目標評価



VIIIセメ	卒 業	論 文 研 究	修 6	
--------	--------	------------------	--------	--

b プログラムの構造

■教養教育科目（34 単位以上）

①教養コア科目

- A 教養ゼミ
- B 平和科目
- C パッケージ科目（「パッケージ別科目」から1パッケージ3科目履修）

②共通科目

A 外国語科目

a：英語

i コミュニケーションⅠ・コミュニケーションⅡ（下記4科目から2科目以上履修）

- 1 「コミュニケーションⅠA」
- 2 「コミュニケーションⅠB」
- 3 「コミュニケーションⅡA」
- 4 「コミュニケーションⅡB」

ii コミュニケーションⅢ（3科目から2科目履修）

- 1 「コミュニケーションⅢA」
- 2 「コミュニケーションⅢB」
- 3 「コミュニケーションⅢC」

b：初修外国語

- 1 「ベーシック外国語Ⅰ」から2科目履修
- 2 「ベーシック外国語Ⅱ」から2科目履修

B 情報科目

- 1 「情報活用基礎」
- 2 「情報活用演習」

C 領域科目

教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

修得したコミュニケーション基礎及び基盤科目の単位を算入することができる。ただし、基盤科目にあっては4単位を限度とする。

- D 健康スポーツ科目（2単位履修）
- E 基盤科目（自由選択）

■「専門教育」科目（94 単位以上）

①専門基礎科目（全必修、4 単位）

- A 「国語文化基礎ゼミⅠ」
- B 「国語文化基礎ゼミⅡ」

②発展科目Ⅰ（全必修、16 単位）

B ii 国語プログラム発展科目Ⅰ

- a：「国語文化実践」科目
- 1 「国語教育学概論Ⅰ」

2 「国語教育学概論Ⅱ」

bⅠ：「国語文化内容（言語系）」科目

1 「国語文化概論A（国語文化とことば）」

2 「国語文化の歴史A（国語の歴史）」

bⅡ：「国語文化内容（文学系）」科目

1 「国語文化概論B（国語文化と文学）」

2 「国語文化の歴史B（国文学の歴史）」

3 「国語文化概論C（国語文化と漢文）」

bⅢ：「国語文化内容（書写書道系）」科目

1 「国語文化概論D（国語文化と書写書道）」

③発展科目Ⅱ（進路別選択履修、36単位以上）

B iii 国語プログラム発展科目Ⅱ

a：「国語文化実践」科目

1 「国語教育基礎論」

2 「国語科学習開発論」

3 「国語科教材研究演習」

4 「国語科教育方法論」

5 「国語カリキュラム・教材構成論」

6 「国語教育史」

7 「国語科教育評価論」

bⅠ：「国語文化内容（言語系）」科目

1 「現代国語文化演習A（国語学分野）」

2 「古代国語文化演習A（国語学分野）」

3 「現代国語文化研究A（国語学分野）」

4 「古代国語文化研究A（国語学分野）」

bⅡ：「国語文化内容（文学系）」科目

1 「現代国語文化演習B（国文学分野〈近現代文学〉）」

2 「古代国語文化演習B（国文学分野〈古典文学〉）」

3 「古代国語文化研究B（国文学分野〈古典文学〉）」

4 「現代国語文化研究B（国文学分野〈近現代文学〉）」

5 「国語文化の歴史C（漢文学の歴史）」

6 「漢字漢語文化研究」

7 「古代中世文学概説」

8 「古代中世文学演習Ⅰ」

9 「古代中世文学研究法」

10 「近世文学概説」

11 「近世文学演習Ⅰ」

12 「近世文学研究法」

13 「中国古典散文演習」

14 「中国古典韻文演習」

bⅢ：「国語文化内容（書写書道系）」科目

1 「書写書道演習」

2 「国語文化の歴史D（書写書道の歴史）」

④専門選択科目・自由選択科目（教職関係科目＋教育学部他プログラム＋他学部開設授業〈進路別選択履修〉）、32単位以上

専門選択科目

「教職実践演習」【c：「プロジェクト」科目】

その他

○教職関係科目

○教育学部他プログラム科目

○他学部開設科目

⑤卒業研究科目（選択必修、6単位）

B iv 卒業研究（国語文化研究法〈2単位〉＋卒業論文〈4単位〉）

a：「国語文化実践」科目

1 「国語文化研究法Ⅰ」

2 「国語文化研究法Ⅱ」

3 「国語文化研究法Ⅲ」

4 「国語文化研究法Ⅳ」

bⅠ：「国語文化内容（言語系）」科目

1 「国語文化研究法Ⅴ」

2 「国語文化研究法Ⅵ」

bⅡ：「国語文化内容（文学系）」科目

1 「国語文化研究法Ⅶ」

2 「国語文化研究法Ⅷ」

3 「国語文化研究法Ⅸ」

○「卒業論文」

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第三類 国語文化系コース（中等教育科学（国語）プログラム）

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)													
							1年次		2年次		3年次		4年次							
							1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ						
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○												
		平和科目		2		2	選択必修	○	○											
		パッケージ別科目		6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○											
	共通科目	外国語科目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	(0)	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	○											
						コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○										
				コミュニケーションⅠ(注3)	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○											
						コミュニケーションⅠB	1		○											
				コミュニケーションⅡ(注3)	コミュニケーションⅡA	1			○											
					コミュニケーションⅡB	1			○											
			上記4科目から2科目以上																	
			コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢA	1	選択必修													
					コミュニケーションⅢB	1							○	○						
					コミュニケーションⅢC	1														
			上記3科目から2科目																	
			初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)		4	ベーシック外国語Ⅰから2科目		1	選択必修	○										
		ベーシック外国語Ⅱから2科目		1			○													
情報科目		2	(注4)	2	選択必修	○														
領域科目		(10)	すべての領域から(注5)	1又は2	選択必修	○	○	○	○											
健康スポーツ科目		2		1又は2	選択必修	○	○													
基盤科目		(0)		1~3	自由選択	○	○	○	○											
計		34																		

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・修得したコミュニケーション基礎及び基盤科目の単位を算入することができる。ただし、基盤科目にあつては4単位を限度とする。

学部履修基準

第三類（言語文化教育系）

○ 国語文化系コース（中等教育科学（国語）プログラム）

科目区分等			要修得単位数	開設学部		
教養教育	教養コア科目	教養ゼミ	2	34	総合科学部ほか	
		平和科目	2			
		パッケージ別科目	6			
	共通科目	外国語科目	英語			6
			初修外国語			4
		情報科目	2			
		領域科目	(10)			
		健康スポーツ科目	2			
	基盤科目	(0)				
専門教育	専門基礎科目		4	94	教育学部ほか	
	専門科目	発展科目Ⅰ	16			
		発展科目Ⅱ	36			
	専門選択科目		32			
	自由選択科目					
卒業研究		6				
合計			128			

専門教育科目履修基準

第三類 国語文化系コース（中等教育科学（国語）プログラム）

履修内容		要修得単位数		開設
専門基礎科目	国語文化基礎ゼミⅠ	2	4	国語文化系コース
	国語文化基礎ゼミⅡ	2		
専門科目 ー 発展科目Ⅰ	国語教育学概論Ⅰ	2	52	国語文化系コース
	国語教育学概論Ⅱ	2		
	国語文化概論A（国語文化とことば）	2		
	国語文化概論B（国語文化と文学）	2		
	国語文化概論C（国語文化と漢文）	2		
	国語文化概論D（国語文化と書写書道）	2		
	国語文化の歴史A（国語の歴史）	2		
	国語文化の歴史B（国文学の歴史）	2		
発展科目Ⅱ	36			
専門選択科目		32		教育学部ほか
自由選択科目				
卒業研究		6		国語文化系コース

<履修上の注意>

- 『卒業研究』の「国語文化研究法」（Ⅰ～Ⅳ＝教育系，Ⅴ～Ⅵ＝言語系，Ⅶ～Ⅸ＝文学系）は，卒業論文における研究領域に応じて1科目を選択履修すること。（2科目まで履修可能で2科目目の履修単位は専門教育「自由選択科目」単位として認める。）
- 『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は，32単位まで認める。
- 教職実践演習（中・高）（8セメスター）を履修するためには，原則として7セメスター終了時点で中・高等学校教育実習Ⅰ又はⅡの単位を修得していること。ただし，教職実践演習を受講するセメスターまでに，教育実習の単位を修得できない場合は，同セメスターで教育実習の単位を修得見込みであることを条件に，履修を認める。

第三類 国語文化系コース（中等教育科学（国語）プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開単位 設数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考	
			1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ			
専門 基礎科目	国語文化基礎ゼミⅠ	②		2									
	国語文化基礎ゼミⅡ	②		2									
専 門 科 展 展 目 目	発展科目Ⅰ	国語教育学概論Ⅰ	②			2						教科の指導法（国語）	
		国語教育学概論Ⅱ	②				2					〃	
		国語文化概論A（国語文化とことば）	②			2						国語学	
		国語文化概論B（国語文化と文学）	②			2						国文学	
		国語文化概論C（国語文化と漢文）	②				2					漢文学	
		国語文化概論D（国語文化と書写書道）	②			2						書道	
		国語文化の歴史A（国語の歴史）	②				2					国語学	
	国語文化の歴史B（国文学の歴史）	②			2						国文学		
	発展科目Ⅱ	国語教育基礎論	2			2						教科の指導法（国語）	
		国語科学習開発論	2				2					〃	
		国語科教材研究演習	2				2					〃	
		国語科教育方法論	2					2				〃	
		国語カリキュラム・教材構成論	2					2				〃	
		国語教育史	2						2			教科又は教職に関する科目	
		国語科教育評価論	2							2		〃	
		現代国語文化演習A（国語学分野）	2				2					国語学	
		古代国語文化演習A（国語学分野）	2					2				〃	
		古代国語文化研究A（国語学分野）	2						2			〃	
		現代国語文化研究A（国語学分野）	2						2			〃	
		現代国語文化演習B（国文学分野）	2				2					国文学	
		古代国語文化演習B（国文学分野）	2					2				〃	
		古代国語文化研究B（国文学分野）	2						2			〃	
		現代国語文化研究B（国文学分野）	2						2			〃	
		国語文化の歴史C（漢文学の歴史）	2					2				漢文学	
		漢字漢語文化研究	2						2			〃	
		書写書道演習	2				2					書道	
国語文化の歴史D（書写書道の歴史）		2						2					
古代中世文学概説	2				2					国文学	文学部		

区分	授業科目	開 単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
卒業研究	国語文化研究法Ⅰ	2						2				
	国語文化研究法Ⅱ	2						2				
	国語文化研究法Ⅲ	2						2				
	国語文化研究法Ⅳ	2						2				
	国語文化研究法Ⅴ	2	②					2				
	国語文化研究法Ⅵ	2						2				
	国語文化研究法Ⅶ	2						2				
	国語文化研究法Ⅷ	2						2				
	国語文化研究法Ⅸ	2						2				
	卒業論文	④										

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等教育に関する基本的な理解ができている。	中等教育に関する理解を十分もっており、それらの理解にもとづいて中等教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	中等教育に関する理解をもっており、それらの理解にもとづいて中等教育の問題点や課題を指摘することができる。	中等教育に関する基本的な理解ができている。	別表のとおり
2) 児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解ができている。	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解を十分もっており、それらの理解にもとづいて児童・青年期の教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解をもっており、それらの理解にもとづいて児童・青年期の教育の問題点と課題を指摘することができる。	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解ができている。	別表のとおり
3) 中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている。	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的知識を十分もっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている。	別表のとおり
4) 中等「国語」の教育内容（「ことば」とその文化）に関する基本的な知識が身に付いている。	中等「国語」の教育内容に関する基本的知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等「国語」の教育内容に関する基本的知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等「国語」の教育内容に関する基本的知識が身に付いている。	別表のとおり

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、総合的批判的に読解することができる。	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、読解することができる。	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。	別表のとおり
2) 中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、十分に分析・検討することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、分析・検討することができる。	別表のとおり
3) 中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる。	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる。	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。	別表のとおり
4) 中等「国語」の教育内容の各領域（国語学・国文学・漢文学）に関する資料・情報を収集し、読解することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ、総合的批判的に読解することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ、読解することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。	別表のとおり
5) 中等「国語」の教育内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域の研究に関して、十分に分析・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域の研究に関して、分析・検討することができる。	別表のとおり
6) 中等「国語」の教育内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査	中等「国語」の教育内容の各領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適	中等「国語」の教育内容の各領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適	中等「国語」の教育内容の各領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調	別表のとおり

し、吟味・検討することができる。	切に調査し、批判的に吟味・検討することができる。	切に調査し、吟味・検討することができる。	査し、吟味・検討することができる。	
7) “ことば”とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	“ことば”とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を広く深く考え、中等「国語」教育のあり方を建設的に探求することができる。	“ことば”とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を広く深く考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	“ことば”とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	別表のとおり

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムを批判的に分析し、適切にデザインし、立案することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムを十分に分析し、デザインし、立案することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。	別表のとおり
2) 中等「国語」の教育内容や教材を分析し、開発することができる。	中等「国語」の教育内容や教材を批判的に分析し、適切に開発することができる。	中等「国語」の教育内容や教材を十分に分析し、開発することができる。	中等「国語」の教育内容や教材を分析し、開発することができる。	別表のとおり
3) 中等「国語」教育の授業を分析、構想、立案し、学習指導案として作成することができる。	中等「国語」教育の授業を批判的に分析、構想・立案し、根拠を持った学習指導案として作成することができる。	中等「国語」教育の授業を十分に分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる。	中等「国語」教育の授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる。	別表のとおり
4) 中等教育および中等「国語」教育に関わる研究を計画、設計し、進め、その結果を分析、検討し、その意義を示すことができる。	中等教育および中等「国語」教育に関する研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を総合的に批判的に分析・検討し、その意義を的確に示すことができる。	中等教育および中等「国語」教育に関する研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。	中等教育および中等「国語」教育に関する研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。	別表のとおり

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セマスタ
1) 個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究や活動を企画、立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。(研究力)	個人、あるいは、グループにおいて、中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究・活動を開発的に企画・立案し、効果的に実行し、アクチュアルな課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。	個人、あるいは、グループにおいて、中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究・活動を開発的に企画・立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。	個人、あるいは、グループにおいて、中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。	別表のとおり
2) コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。(IT活用力)	コンピュータなどIT機器を十分に用いて、的確に基礎的な統計処理や数値表現ができる。	コンピュータなどIT機器を十分に用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。	コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。	別表のとおり
3) 中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。(プレゼンテーション・コミュニケーション力)	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすく効果的にプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを深く図ることができる。	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすく効果的にプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。	別表のとおり
4) 多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育を	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育を	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育を	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育を	別表のとおり

<p>めぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム（プロジェクト的活動）の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。（社会性・協同性）</p>	<p>ぐる協同的な研究・実践活動に積極的に取り組み、グループやチーム（プロジェクト的活動）の一員として自らの力を十分に発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。</p>	<p>ぐる協同的な研究・実践活動に積極的に取り組み、グループやチーム（プロジェクト的活動）の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。</p>	<p>ぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム（プロジェクト的活動）の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。</p>	
--	---	--	--	--

担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
吉田 裕久	担当授業科目：国語文化基礎ゼミⅠ 国語教育学概論Ⅰ 国語教育史 国語科教育方法論 国語文化研究法Ⅰ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟301 E-mail アドレス：	【教科の指導法】 【教科又は教職】 【教科の指導法】 【ゼミ】
間瀬 茂夫	担当授業科目：国語文化基礎ゼミⅡ 国語教材研究演習 国語科教育評価論 国語カリキュラム・教材構成論 国語文化研究法Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟302 E-mail アドレス：	【教科の指導法】 【教科又は教職】 【教科の指導法】 【ゼミ】
山元 隆春	担当授業科目：教養ゼミ 国語教育学概論Ⅱ 国語教育基礎論 国語文化研究法Ⅲ 卒業論文 ＊読書と豊かな人間性 研究室の場所：教育学部C棟611 E-mail アドレス：	【教科の指導法】 【教科の指導法】 【ゼミ】 ＊特別プログラム

田 中 宏 幸	担当授業科目： 国語科学習開発論 国語文化研究法Ⅳ 研究室の場所：教育学部C棟609 E-mail アドレス：	【教科の指導法】 【ゼミ】
小 西 いずみ	担当授業科目：国語文化基礎ゼミⅡ 国語文化概論A 現代国語文化演習A（国語学分野） 現代国語文化研究A（国語学分野） 国語文化研究法Ⅴ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟305 E-mail アドレス：	【国語学】 【国語学】 【国語学】 【ゼミ】
佐 々 木 勇	担当授業科目：国語文化基礎ゼミⅠ 国語文化の歴史A（国語の歴史） 古代国語文化演習A（国語学分野） 古代国語文化研究A（国語学分野） 国語文化研究法Ⅵ 卒業論文 研究室の場所：教育学部C棟610 E-mail アドレス：	【国語学】 【国語学】 【国語学】 【ゼミ】
川 口 隆 行	担当授業科目：国語文化基礎ゼミⅠ 国語文化概論B（国語文化と文学） 現代国語文化演習B（国文学分野） 現代国語文化研究B（国文学分野） 国語文化研究法Ⅶ 卒業論文 研究室の場所：教育学部C棟607 E-mail アドレス：	【国文学】 【国文学】 【国文学】 【ゼミ】

竹 村 信 治	担当授業科目：国語文化基礎ゼミⅡ 国語文化の歴史B（国文学の歴史） 古代国語文化演習B（国文学分野） 古代国語文化研究B（国文学分野） 国語文化研究法Ⅷ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟306 E-mail アドレス：	【国文学】 【国文学】 【国文学】 【ゼミ】
佐 藤 大 志	担当授業科目：教養ゼミ 国語文化概論C（国語文化と漢文） 国語文化の歴史C（漢文学の歴史） 漢字漢語文化研究 国語文化研究法Ⅸ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟307 E-mail アドレス：	【漢文学】 【漢文学】 【漢文学】 【ゼミ】
松 本 仁 志 (第1類)	担当授業科目：国語文化概論D（国語文化と書写書道） 書写書道演習 国語文化の歴史D（書写書道の歴史） 研究室の場所：教育学部C棟606 E-mail アドレス：	【書道】 【書道】